

オットセイ生態把握調査報告

はじめに

H20 年頃から松前町をはじめとした北海道日本海沿岸においてオットセイによる漁業被害が問題となり、その原因究明および対策が求められてきました。しかし、本海域でいつ、どこに、どの様なオットセイがどれだけ生息しているのかといった基本的な生態情報に加え、オットセイがどんな被害を引き起こしているのかの情報が乏しい状況にありました。そこで被害防止対策を検討する上で必要なオットセイの分布、回遊、生物特性および食性等の生態的知見を得ることを目的として調査を実施してきました（後藤 2012, 堀本 2016）。



図 1 松山沖で目視したオットセイ

調査概要

本調査は H27 年度より有害生物総合対策事業の一環として、道総研稚内・中央水試、北海道大学北方生物圏フィールド科学センターとの共同研究で実施されました。H29 年度までの 3 年間の主な成果は次の通りです。

分布：道西日本海において調査船による広域目視調査を初めて実施し、オットセイは積丹以北の海域では沖合に多く分布していたのに対し、以南の海域では沿岸域にも多数分布していました。

回遊：松前沖において初めて大型個体の捕獲に成功し、衛星発信機によって松前からロシア繁殖場までの回遊経路を明らかにしました。

生物特性：本海域に来遊するオットセイの特徴として、4 歳以上の成熟した雄の割合が高かった。

食性：胃内容物分析により主要な餌組成はホッケ、イカ類でした。

被害：漁業被害統計を整理し、各海域で盛んな沿岸漁業で被害が多い事（道北：刺し網、道南：敷網・延縄等）が分かりました。

これらの調査結果については、次の HP にダイジェスト版を掲載してありますのでご覧ください。

<http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/shigen/>

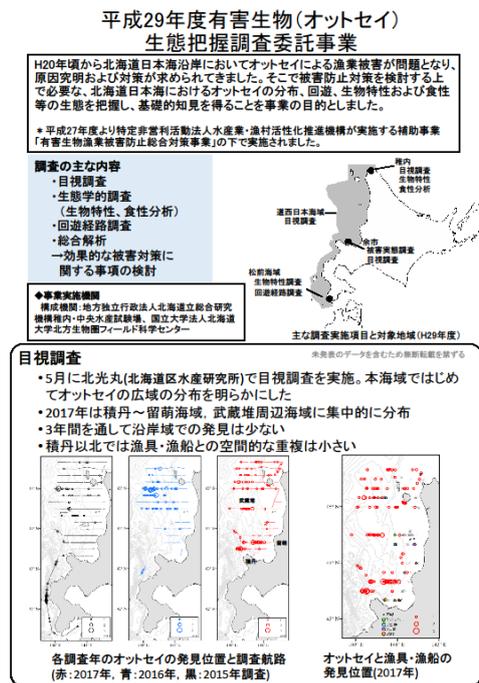


図 2 調査報告ダイジェスト版

調査開始当初から松前さくら漁業協同組合をはじめ、地元の方々から様々な協力を頂いたことから、本調査で得られたオットセイの生態に関する結果について現地報告会を実施しました（図3）。盛りだくさんの報告内容だったのですが、集まった皆さんから様々なご意見を頂き、地元の方ならではの漁獲状況やオットセイについての情報が得られました。

近年の北海道におけるオットセイによる漁業被害は10年前に比べると減少傾向にあり（図4）、オットセイの来遊頭数が減少していることが（図5）その要因と考えられますが、地元ではまだまだ大きな問題であるとの声が多数聞かれました（図6）。

今後に向けて

本調査の結果、道西日本海におけるオットセイの様々な生態や被害実態について明らかにすることができました。当初はこれらの結果をもとに、被害対策としてトドやアザラシで実施されているような、個体数管理への展開も選択肢として想定されていました。しかし、関係識者との検討の結果、オットセイは本海域以外にも広く分布し、生息数が膨大であるため量的コントロールは難しく、さらにオットセイの回遊範囲がロシア、アメリカに至るまで広いため国際的な配慮が必要であることから、個体数管理は難しいという判断となりました。

そこで、今後は捕獲のみに頼らない被害軽減方策についても検討が求められることになりました。そのためには今後どのような調査・設計が必要になるのか、これまでに得られた結果やトド等で実施されている事例を参考に、関係者と協議し、調査研究に取り組んでいきたいと考えています。

（北海道立総合研究機構 中央水産試験場
資源管理部 和田昭彦）



図3 松前町における報告会の様子

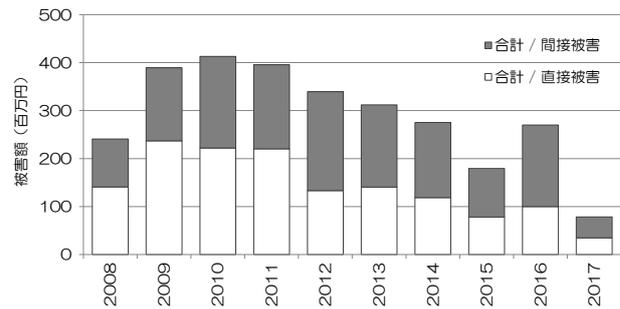


図4 オットセイによる漁業被害額の推移 (直接被害：漁具破損、間接被害：漁獲物等)

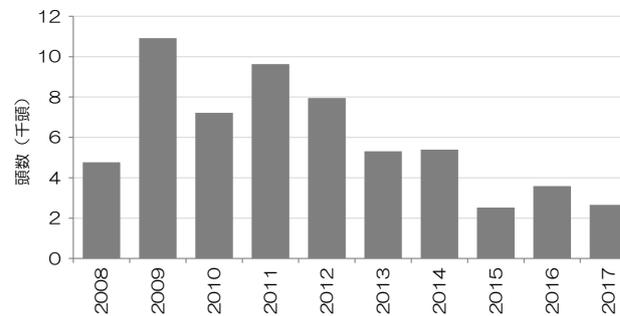


図5 オットセイのベ目視数 (2017年度は暫定値)



図6 オットセイによる食害例 (2018年泊村における刺し網漁獲物。腹部のみ食べられている)